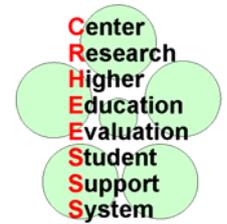


週刊センターニュース No.24



第24号(2004年8月25日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第35回 日時: 9月1日(水) (13時30分 ~ 15時)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 青野透(大学教育開発・支援センター)

題目: 「非常勤講師の削減問題について」

趣旨: 全学的に検討中である非常勤講師削減問題について、話題提供者は次のように考えます。<非常勤講師の手当について全学的な経費の支出を求める場合は、各部局は全学に対して、次のような説明責任がある。

その科目開講の必要性 隔年開講等の対応策の検討結果

他部局を含めて学内に適任者がいないことの確認 依頼予定の非常勤講師の適切性(旅費などがあまりかからない近県から適任者を探す努力をした結果であることを含む)。これに加えて、例えば、全学出勤である教養教育については、学部教育担当等が忙しいという理由による担当回避には正当性がない、過去の担当実績を勘案した担当計画を立てるべきである(今年度までの担当実績が少ない教員は来年度に多めに担当)、本学の教養を担当せずに他大学での非常勤を担当しているような例があるとすれば是正すべきである、さらに、「学生による授業アンケート」を実施している非常勤教員や教養教育全学研究会に参加している非常勤教員の場合は担当の適切性について一定の補強証拠となりうる>。これらを中心に議論します。

「金沢大学フォーラム in 大阪」参加レポート

8月9日、大阪梅田で金沢大学フォーラムが開催された。受験生に対する進路相談を兼ねた金沢大学の広報を目的とするもので、当センターと学生募集課とが協力して企画、広報、運営に当たった。隣接する2会場において、一方では各学部の教員、学生が受験生の進学相談に応じ、同時に他方では大学案内のビデオ上映、講演会、討論会を行った。講演会では、鹿野勝彦教育担当理事が国立大学と私立大学との比較や、金沢大学の教育における今後の取組について述べられた。知識の伝達が主な目的である講義型の科目では、国立大学と私立大学との間で大きな差は現れない。しかし大学での授業は、学生の問題発見、問題解決を促すところにその特徴がある。そのような目的を持った実験、実習、卒業研究などの科目では、きめ細やかな指導が必要不可欠であり、少人数教育が難しい私立大学と比べて現在の国立大学は大きな優位性を持っている。学生数/教員数の比率に焦点をあて国立大学のメリットを指摘された。金沢大学は、8学部8研究科からなる多様な教育研究分野を擁する総合大学である。今後もこの多様性を大事にして、その特徴を最大限に生かすために、複数の領域を学ぶことのできる教育システムについて検討が始まっていることを紹介された。

鹿野理事に続き、早川和一教授に21世紀COEプログラムによるプロジェクト研究の概要について述べていただいた。このプロジェクトでは本学薬学部、工学部、理学部に所属する20名に及ぶ研究者により学際的に環日本海地域についての研究が進められている。このような学際的研究もまた多彩な研究分野を擁する金沢大学において可能であることを強調された。

講演会に続き、医学研究科、工学部、教育学部からの学生の代表として3名、当センターの堀井、

鹿野理事、早川教授で当センターの青野の司会で討論が行われた。学生代表からは、キャンパス生活、授業、金沢大学を志望した理由など率直な意見が出され、受験生にとっては有益な情報となったのではないかと思う。特に教員3名の学生時代についての率直な体験談は大変興味深かった。高校から大学、そして学部から大学院へと進学するたびに大きく世界は広がっていく。学部で自分がほんとうにやりたいことを見つけてほしい。さらに追求したければあるいは別の道を模索するのであれば、大学院でいくらでもそのチャンスが用意されている。体験に基づいた3教員からのメッセージは大いに受験生の心に残ったことと思う。

個別の進路相談と講演会、討論会を並行して行ったが、受験生が時間的に分散して会場を訪れるため、講演会、討論会に参加しない場合もあった。1会場で進めてもよかったかもしれない。さらに、当センターの第33回共同学習会でも今回のフォーラムについて報告し反省点を議論したが、予備校などと連携して参加者数の大幅な増加を目指すことが必要と思われる。予備校と連携してオープンキャンパスの開催を計画している国立大学もあると聞く。大学全体として今後取り組むべき重要な課題である。

最後に、鹿野先生、早川先生、進学相談会にご協力いただいた各学部の教員、学生みなさんに感謝いたします。（文責 西山）

「ボランティアコーディネーター研修会（教職員対象）」参加レポート

8月25日、筆者は、石川県社会福祉協議会が教職員向けとしては初めて開催した研修会に参加した。午前10時に始まり、昼食をはさんで午後5時近くまで、文字通り、研修付けとなった。全体の講師は、高校で初めてボランティアセンターを作った作新学院高校のボランティアコーディネーターの森照代教諭であった。

午前の部は、現代社会そして現代の若者のボランティア事情の解説に始まり、学校内のボランティアコーディネーターの必要性に関する、問答方式も交えた講義であった。午後は、参加者8名が二つのチームに分かれ、講師が出した問題の回答をポストイットに書いていき、それを模造紙に貼り付けて、グルーピングして検討し、結果報告するという方式の演習であった。生徒・学生から見てどのようなコーディネーターが望ましいのか、ボランティア依頼者側はどのようなコーディネイトを期待しているのか、議論しながら考察を深めることができた。

本学は中期計画に「課外活動団体顧問教員の会議開催，課外活動成果発表の場の積極的な提供，ボランティア相談窓口の設置等により，課外学習の支援を行う」と明記している。ボランティアを教育の一環、課外学習ととらえての記述である。筆者はすでに、「平成14年度学生ボランティア活動支援・促進のための連絡協議の集い」（内外学生センター主催、2002年12月5日開催）や、「第6回全国ボランティア学習研究フォーラム東京・武蔵野大会 交響する学びの世界へ - ボランティア学習が拓く「学力」 -」（日本ボランティア学習協会主催、2003年12月6日～7日開催）に参加してきた。全国の先進的な大学・短大がボランティアセンターを立ち上げることなどにより、学生の教育、併せて、大学の地域貢献としてボランティアを重視してきているという重要な事実がある。ボランティアをしたい学生がいて、その力を期待している地域の人々がいる以上、学内に窓口を設置するのは大学の最低限の義務であろう。筆者が研修体験を生かし、コーディネーターとして実際の活躍を求められるのは、今後、窓口が開設されてからになる。（文責 青野）

センター教員活動記録（8月21日～8月25日分）

2004.8.24「ボランティアコーディネーター研修会（教職員対象）」に参加

（主催：石川県社会福祉協議会）会場：石川福祉総合研修センター（青野）

2004.8.24 第4回まち塾（於：市民芸術村）に参加（青野）